

第304回山口西田読書会（2022年5月14日開催分）の Protokol

行武要記

1. テキスト：「場所」「三」の第4段落248頁13行目から同段落249頁2行目まで
2. キーワードないしキーセンテンスと考察ないし問い

「真に意識する意識、即ち真の直覚」（248, 15-249, 1）

現象学者は、知覚が意識作用を基礎付け、知識は意識作用の底にある直覚に向かって充実されること・明証性を志向すると措定する。

西田は、この「知識の基礎となる直覚」（248, 14-15）を「意識せられた意識」（248, 15）であると批判し、「真に意識する意識、即ち真の直覚」とは意識作用を基礎付け、基礎付け自身が「一種の充実的方向」（249, 2）、即ち明証性の志向を有しているとした。

ならば、始原である「真の直覚」から意識の誤謬はどのように説明できるだろうか。